

## 第7回水難学会学術総会（平成29年・東京都）発表抄録

### 三郷市着衣泳法普及推進事業 5年が経過して

○佐竹洋二、豊田 修、京野俊二、斉藤和彦、天野 尽、大倉弘司、  
近藤貴徳、池田光芳、篠田恭司、羽州貴広、渡邊優介（三郷市消防本部）

#### 1・諸言

三郷市着衣泳法普及推進事業の経緯は、2015年2月発行のういてまで会報34号トピックスにおいて「三郷市の事業となったういてまで」で執筆の機会をいただき会員の皆様にお伝えすることができた。今回はこれまでの本事業を振り返り、一つの目安であった事業化5年が経過したことから今後の展望も考える。

#### 2・これまでのあゆみ

当市でういてまでを実施した経緯は、平成17年に市内の河川で川遊びをしていた小学生が溺死する事故があり、その現場で救助活動に携わった消防職員がこの事故を契機にういてまでを広めようと指導員講習会を受講したことが始まりである。初めは有志による年間数校での実施であったが、年を重ねるごとに学校の教員間で口コミにより実施校が増えていき、平成23年には7小学校1,471人の児童に対し講習を実施した。

着々と規模が大きくなり、これまでの実績から平成24年度に市教育委員会・学校・消防の共同事業として「三郷市着衣泳法普及推進事業」が5か年の期限付きでスタートする。事業化後5年間の実績としては、延べ54校438クラス13,311人となるが、この期間に残念ながら市内小学生1名の水難による溺死事故が発生している。

#### 3・これまでの主な改善点

○講習実施時間 講習の時間は2時限から4時限の3コマとし、午後の講習は実施していない。これにより指導員の拘束時間が短く抑えられ、指導員の疲労負担軽減に繋がった。

○安全管理体制 学校により各コマの児童数がまちまちで数十名から数百名と幅広く、必要最小限の指導員で講習を行うため、安全管理隊制度を設け、管轄する署からポンプ隊1隊を派遣し、地上からの安全管理を行っている。

○保護者参加型 親子で学ぶういてまでを平成27年から積極的に行うようになり、授業参観形式で保護者のかたにも足を運んでいただき、見て学ぶ講習会を行っている。また一部では実際に保護者のかたにも水の中に入ってもらい指導補助の役割を担っていただき、これまでに延べ15校500名の保護者が参加した。また、参加率を高めるため講習案内のチラシを学校経由で配布している。

#### 4・今後の展望

5か年の期限付きで始まった事業であったが、これまでの実績により平成31年まで3か年の延長が決定した。また、平成29年3月の三郷市議会定例会において議員からの一般質問で水難事故等への対策として、現状・学校での取り組み・今後の対策について質問があり、消防長答弁で今後も職員の負担軽減を考慮した指導体制を構築していくと述べている。また、議員からも当市は消防と学校の連携が図れていると評価され、指導員の負担軽減を目的に外部からの指導員受け入れ等も考慮して欲しいと述べていた。

現在、本事業では、指導は認定指導員11名を中心に当市消防職員と市内医療機関看護師など一部ボランティアで行っており、指導員確保の面では恵まれているが、実施期間が6月下旬から7月中旬までの短期間で密集している現状であり、指導員の身体的負担は否めない。今後はさらに必要最小限の指導員で指導が行えるよう、学校教員にも有資格者の育成を促し指導に加わるとともに保護者が実際にプールに入り指導補助を行っていただくなど、地域も連携した安心安全なういてまでが継続的に実施できるよう日々試行錯誤し、運営を行い市内での溺死0を永年継続できるよう普及に努めていきたい。